

幸手市文化遺産だより



●建物・ひと—幸手で育まれた地域資源を見つめなおす— 1

中2丁目 岸本家住宅主屋が国の登録有形文化財(建造物)に登録されました



登録有形文化財とは、地域に親しまれ、時代の特色をよく表わす文化財建造物を守り、地域の資産として活かすため平成8年に誕生した国の文化財登録制度で登録されたものですが、50年を経過した歴史的建造物で、一定の評価を得たものが登録されます。

岸本家住宅は、大正時代まで醤油醸造業を営んでいた同家の居宅です。土蔵造り2階建て(一部木造平屋建て)で江戸時代末期に建築されました。この建物が、平成21年9月25日に開催された国の文化審議会文化財分科会の審議議決を経て、同11月2日に文化財登録原簿に「岸本家住宅主屋」として登録されました。

旅に出ると、知らない街の風景の中に風格をもった建物と出会うことがあります。こうした建物を眺めていると、この土地に秘められた歴史や文化に思いを寄せる楽しみが生まれるものです。そういう楽しみを、ぜひ地元に残る建物を通して味わってみてください。今回登録文化財となった岸本家住宅がそのきっかけとなることを願います。

「幸手の人物展」を開催しました

昨年の平成21年11月7日(土)・8日(日)の二日間、第49回幸手市文化祭の展示会場(幸手市民文化体育館:アスカル幸手メインアリーナ)において、「幸手の人物展」を開催しました。今回は、とくに江戸時代の市域で活躍した人物に焦点を合わせ、その人柄や業績を紹介しました。「埼玉ゆかりの偉人展」と同時開催しましたが、会場に訪れた多くの方々にご覧いただき好評が得られたようです。また、解説文をはじめ写真や図版のパネル作成を、石造物調査市民ボランティアの有志の皆さんと一緒に行いました。地道な活動ですが、多くの業績を遺しながら、関心をもたれなかった郷土の偉人たちを見つめなおすきっかけになりました。建物や文化財と同じように、こうした人物たちを幸手で育まれた独自の地域資源ととらえてみることも大切でしょう。

幸手の人物 ①
橘守部
Tachibana Moribe
たちばなもりべ

●幕末学界の偉人にして国学史上の異彩



天明元年(1781)伊勢国(三重県朝日町)に生まれる。17歳で江戸へ出て、国学研究を志し29歳の時に、内国府間村(北二丁目)に転居、文政12年(1829)に江戸へ戻るまで20年を幸手で過ごした。
守部は当時の主流であった本居宣長の学説に対抗し、独自の学説の確立に努め、「天保の国学四大」と称された。結果、「稜威道別」を初めとする多くの書を著し、門人を育て、嘉永2年(1849)に69歳で没した。
幸手に関する著書に「待問雑記」がある。また、住居跡(幸手商業高校内)に「橘守部翁遺蹟碑」(市指定文化財)が建てられており、幸手商高・幸手中・幸手西中の校章に「たちばな」を用いて守部の偉業を称えている。

●幸手宿の「博識・蔵書家」の竹香先生



天明5年(1785)ごろ久喜(久喜市)に井上世亮の子として生まれ、のちに幸手宿金子邦保の養子となる。弘化4年(1847)63歳で没す。俗称は玖右衛門。儒学者、能書家、蔵書家として知られた。
『外夷奇事編』や『竹香山異聞記』などを著す一方、裏町の天神神社(中一丁目)の蔵、平野の観音様の扁額、上吉羽の金子家墓地の供養塔をはじめ、市外では鷲宮神社の神道無念流奉納額に竹香の書が残されている。
博学にして多才、かつ文人としてこよなく酒を愛した竹香の死を悼んだ近隣有志たちは、聖福寺(北一丁目)に儒学者亀田綾瀬の撰文・書による「竹香金子明徳銘並序」の石碑を建立している。

幸手の人物 ②
金子竹香
Kaneko Takekage
かねこたけか

幸手の人物 ③
鈴木百淵
Suzuki Hyakuen
すずきひやくえん

●上高野村に暮らし大般若経600巻書写を成就した「孤高の心学者」



宝永7年(1710)江戸に生まれ医を業とする。父の死後仏教を信仰し、母の死後、両親の冥福を祈り大般若経の書写を発願する。その後隠者となり經典書籍を借覧し、苦勞を重ねること6年にして、上高野村に来住する。以後20年を費やして天明元年(1781)「大般若波羅密多經」600巻の書写を成就する。
なお、この大般若経は祥安寺(南三丁目)に所蔵され、平成10年に市指定文化財となった。
心学者として「幼童便蒙」や「元原本尋」など著書多数。光福院(鹿寺)に寺子屋を開く。没年不詳。



鈴木百淵の墓

幸手の人物 ④
岡田惣右衛門
Okada Soemon
おかだそうえもん

●柳剛流開祖 一柳のごとく柔らかだが、よく剛を制す—



明和2年(1765)惣新田村に生まれる。諱は奇良、俗称は惣右衛門。幼いころから機敏で神童と呼ばれ、18歳のころ旅に出て、心形刀流伊庭軍兵衛の高弟大河原右膳に師事して免許を得た。
惣右衛門は、剣術だけでなく、薙刀・居合・棒術・杖術などの武芸のほか、柔術も習得した。その結果、腰を切ることを最大の特徴とする実戦的な剣術を考案。雪に折れ難い柳にちなみ「柳剛流」と称し開祖となった。
江戸の神田お玉が池に道場を構え、全国に多くの門弟を擁した。文政9年(1826)62歳で没す。



柳剛流開祖岡田先生之碑 (市指定文化財)

●江戸の相撲界に君臨し、故郷に錦を飾る

下吉羽村の生まれ(生年不明)。本名は金子采蔵という。初土俵は寛政11年(1799)、文化8年(1811)に引退。その後、天保9年(1838)雷権太夫を襲名し、現在の相撲協会理事長に相当する「筆頭」として13年間にわたり角界で絶大な勢力を揮った。なお、「雷」とは、江戸時代に相撲協会のトップに許された大名跡である。
また、生地下吉羽の香取神社には、雷権太夫が寄進した石造りの大鳥居(再建)が残されている。
弘化2年(1845)雷権太夫は、勸進元として権現堂村の若宮権現社修復相撲興行を東西大関はじめ力士400人余・行司30人を率い、7日間権現堂村で開催している。

幸手の人物 ⑤
雷権太夫
Raikentotou
らいけんとう



雷権太夫の錦絵 (相撲博物館蔵)

幸手の人物 ⑥
長嶋屋
Nagashimaya
ながしまや

●現金安売り・掛け値なし / 池大雅の看板を残した幸手宿の豪商

長嶋屋は、江戸時代から明治時代にかけて日光道中幸手宿で隆盛を極めた呉服商。代々「青木」を姓とする。初代は天正期(1573~91)に幸手に居を定めたとされ、元禄(1688~1703)のころ4代目吉兵衛が呉服商を始めたという。
屋敷は、日光道中に面した荒宿(中三丁目)にあった。代を重ね財力をつけた結果、長嶋屋は店舗と7つの蔵、多くの使用人、向店や分店をもつ幸手宿きっての大商人となった。また、100町歩余の農地をもつ大地主ともなった。
しかし、明治25年、境町塚崎(茨城県境町)の干拓事業に失敗、破産して幸手から姿を消した。



長嶋屋の看板

伯元・察元・烈元 本因坊三代と幸手

囲碁文化と幸手との深いつながりが明らかに

江戸時代の囲碁の本因坊家第8世「伯元」、第9世「察元」、第10世「烈元」は、伯元が天神島、察元が平須賀(外郷内)、烈元が上吉羽(轡瀬)の出身です。これは、幸手の囲碁文化史上の快挙です。大切に受け継いでいきましょう。



伯元 察元 烈元

文化遺産保存公開日誌抄

平成20年4月1日～平成21年3月31日

平成 20 年

- 4. 15 市内水塚調査 (長間・惣新田)
- 4. 21 市内水塚調査 (長間・天神島)
- 4. 23 石造物データ整理 (資料室)
- 4. 28 石造物データ整理 (資料室)
- 4. 30 石造物データ整理 (資料室)
- 5. 1 民具資料館見学 (さくら小学校)
- 5. 2 民具資料館見学 (八代小学校)
- 5. 12 市内水塚調査 (上吉羽・神明内)
- 5. 19 石造物調査 (戸島・上戸)
- 5.21~23 歴史的公文書収集
- 5. 23 埼玉葛地区文化財担当者会総会 (杉戸町中央公民館)
- 5. 26 石造物調査 (戸島・上戸)
- 5. 27 石造物データ整理 (資料室)
- 5. 28 埼玉協総会 (春日部市教育センター)
- 5. 30 市内史跡案内 (上高野婦人会)
- 6. 2 市内水塚調査データ整理 (資料室)
- 6. 3 石造物データ整理 (資料室)
- 6. 6 歴史的公文書収集
- 6. 9 歴史的公文書収集
- 6. 10 市内水塚調査 (下川崎・外国府間・惣新田・平須賀)
歴史的公文書収集
- 6. 12 市内水塚調査 (惣新田・上高野・戸島)
圏央道予定地試掘調査立会 (天神島)
埼玉協第6次専門研究委員会 (埼玉県立文書館)
- 6. 13 圏央道予定地試掘調査立会 (天神島)
埼玉葛地区文化財担当者会役員会 (宮代町郷土資料館)
- 6. 16 市内水塚調査 (惣新田・平野・戸島・平須賀)
- 6. 17 市内水塚調査 (惣新田・円藤内・千塚)
- 6. 20 埼玉葛地区文化財担当者会 (八潮市立資料館)
- 6. 23 市内水塚調査 (惣新田・平須賀)
- 6. 24 市内水塚調査データ整理、石造物データ整理 (資料室)
- 7. 1 市内水塚調査データ整理、石造物データ整理 (資料室)
- 7. 2 埼玉・北埼玉地区文化財担当者会役員会 (鷲宮町立郷土資料館)
- 7. 7 市内水塚調査データ整理 (資料館)
- 7. 8 市内水塚調査 (再調査)、市内水塚調査データ整理
市内文化財めぐり (五霞町文化財を守る会)
- 7. 14 市内水塚調査データ整理 (資料館)
- 7. 15 市内水塚調査データ整理 (資料館)
- 7.17~18 埼玉協実務研修会 (県立文書館)
- 7. 22 石造物データ整理 (資料室)
- 7. 23 埼玉葛地区文化財担当者会民俗部会 (宮代町郷土資料館)
- 7. 24 埼玉葛地区文化財担当者会現地研修会 (群馬県板倉町・大利根町)
- 8. 6 市教研 市内文化財めぐり
- 8. 19 埼玉葛地区文化財担当社会民俗部会 (利根川資料館)
- 8. 23 第6回市史講座① (市役所)
- 8. 26 埼玉協専門研究委員会 (久喜市公文書館)
- 8. 30 第6回市史講座② (市役所)
- 9. 1 石造物調査 (木立)
- 9. 2 石造物調査 (上高野)
河川研究会市内巡見同行説明
- 9. 6 第6回市史講座③ (市役所)
- 9. 8 石造物調査 (上高野)
- 9. 9 石造物調査 (上高野)
埼玉葛地区文化財担当者会民俗部会 (県立文書館)
民具資料館見学 (権現堂川小学校)
- 9. 16 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 9. 19 埼玉葛地区文化財担当者会 (鷲宮町立郷土資料館)
埼玉・北埼玉地区文化財担当者会合同研修会

- 9. 25 埼玉協専門研究委員会 (県立文書館)
- 10. 7 石造物調査 (平須賀)
- 10. 14 石造物調査 (平須賀)
民具資料館見学 (一般)
- 10. 20 石造物調査 (平須賀)
- 10. 21 石造物調査 (天神島)
- 10. 27 石造物調査 (天神島)
- 10. 28 石造物調査 (天神島・平須賀)
市内水塚調査 (天神島)
- 11. 4 石造物調査 (平須賀・吉岡)
- 11. 11 民具資料館見学 (幸手小学校)
- 11. 12 民具資料館見学 (幸手小学校)
- 11. 13 民具資料館見学 (クラブ幸手)
- 11. 17 石造物調査 (平須賀)
- 11. 18 石造物調査 (吉野)
埼玉葛地区文化財担当者会民俗部会 (宮代町立郷土資料館)
埼玉協視察研修会 (小山市文書館)
- 11. 19 埼玉葛地区文化財担当者会 (白岡町B&G)
- 11. 21 石造物調査 (吉野)
- 11. 25 民具資料館見学 (さかえ小学校)
- 11. 26 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 11. 28 石造物調査 (戸島・平須賀)
- 12. 1 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 12. 2 市内水塚調査データ整理 (資料館)
- 12. 8 市内水塚調査のまとめ 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 12. 9 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 12. 15 埼玉協専門研究委員会 (県立文書館)
- 12. 17 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 12. 18 歴史的公文書収集 (水道部)

平成 21 年

- 1. 7 埋蔵文化財試掘調査 (榎野地内江戸川河川敷)
- 1.13~15 圏央道予定地試掘調査立会 (平須賀)
- 1. 15 埼玉・北埼玉地区文化財担当者会合同役員会 (鷲宮町立郷土資料館)
- 1. 19 石造物調査 (木立)
- 1. 20 石造物調査 (上高野)
- 1. 21 埼玉協専門研究委員会 (飯能市市民会館)
- 1.26~30 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 2. 5 埼玉協専門研究委員会 (ふじみ野市)
- 2.9~10 石造物調査 (上高野)
- 2.16~18 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 2. 20 埼玉葛地区文化財担当者会 (松伏町)
- 2. 24 石造物報告書編集作業 (資料室)
- 3.2~3 石造物データ整理 (資料室)
- 3.9~10 石造物報告書編集作業 (資料室)、石造物調査 (上高野)
- 3. 16 石造物調査 (上高野・平須賀他)
- 3. 17 石造物調査 (天神島・平須賀他)
埼玉協専門研究委員会
- 3.23~24 石造物報告書編集作業 (資料室)、石造物調査 (天神島・平須賀他)
- 3. 30 民具資料館屋根修繕

幸手市文化遺産だより 第7号

平成 22 年 3 月 1 日発行
 編集：幸手市教育委員会 生涯学習課
 〒340-0192 幸手市東4-6-8
 Tel・Fax 0480-43-3248
 発行：幸手市教育委員会